

しかしながら今回のイベントでは、松永先生に精度の高いアテンドをして頂き、質問も非常に的を得たものだったので、終始自然体で終えることが出来ました。お寺にて事前の打ち合わせもしますが、初めから御膳立てされた出来レースではなく、いわゆる出たところ勝負でいこうという先生の意向により、良い意味で準備されていないやり取りの臨場感があつたと思います。そして病院も寺も地域との関わりは密接で、松永先生が提唱する医療のあり方やソーシャルデザインの可能性は非常に興味深く、私自身の意欲をかき立てるものでした。特に地域通貨のような発想は革新的で、地域コミュニティが抱える様々な問題にリンクしており、今後必要不可欠である地域力向上において注目すべきツールだと感じました。お寺と病院ではもちろん立場は違いますが、だからこそ松永先生の鋭い視点は参考になり、病院とお寺、あるいは医師と僧侶が議論し連携することで新たなイナミクスも生まれるような気がしました。



「Com.Fes 2019」のイベントで使用されたポップ(右)
「僧侶×医師-人の生死に関わる職業-」トークショーの様子(左)
※写真向かって左側が医師の松永先生

うのは、非常に斬新で尚且つ誰にとつても共感できるところがあつたのではないのでしょうか。これを足掛かりに第二弾にあたるよう企画も考案出来るような気がします。このイベントのお陰で、また新たな可能性を感じることが出来ました。

**今年で三度目の実施!
ドラゴンキングフェスティバル**

八月二十六日、すっかり地域に定着した観音院主催のキッズフェス、ドラゴンキングフェスティバルが開催されました。三回目ということもあり内容的には最も充実しつつ、クオリティの高いものに仕上がりました。告知前に参加募集はいつあるのかという電話もあり、地域に浸透してきた手応えを感じました。今回は新たに手伝ってきた運営スタッフも増え、催し物も豊富なラインナップで臨むことが出来まし。これまでに創作した千本引きやスーパースポーツ、ヨーヨー、スクラッチ、キャンディつかみ取り、バルーンアートの実演ブースなどの定番に加え、射的台もDIYで作りました。そして今回特に力を入れて制作したのは、ジャンボガラポン機です。商店街でお馴染みのガラポンが大きかったら子供達は喜ぶだろ



うと思ひ、試行錯誤しながら自作しました。お盆期間のお寺に待機して間に少しずつ製作したので、その過程を見て「住職さん、何作ってるんですか?」と尋ねる方も多く、私も何度か同じことを答えました。(笑) 苦労の甲斐もあり、子供達が扱えるくらいの軽さと強度を兼ね備えた自信作が出来ました。玉が出た時の子供達の笑顔は格別でした。ショーは念願叶つてのアカペラ・ライブを社会人アカペラグループのツムギさんにお願ひし、キッズメドレーなどお馴染みの曲が演奏され、大いに盛り上がりました。開催場所の新陽高校からはタイムテーブルにはないゲリラサイエンスショーと吹奏楽部による工夫を凝らしたステージショーが披露されました。学校側との情報共有が難航し、この点では準備不足があつたものの、これだけの規模のイベントを実践する原体験を生徒達に提供出来たことは価値があつたかと思ひます。

やはり総勢三百人規模のイベントは、準備も楽ではなくいいことばかりでもありません。そ

(右上) パンチヨーヨーすくい (右下) バルーンアート (左上) 千本引きくじ (左下) ジャンボガラポンくじ

れでも沢山の子供達の笑顔を見たら、これを続けてきて本当によかつたと思えました。幸いにしてこのお寺には格式も伝統もなかつたので、失敗を恐れずとにかくアイデアを行動に移すということをスピーディーにやってきました。振り返ればこの継続が、地域の子供達に笑顔をお届けするという最高の結果をもたらし、同時にお寺としての個性を色濃く育てあげること出来ました。このスタンスを今後も大事にしつつ、更に磨きをかけていく所存です。イベントをお手伝い頂いた皆様、そして御志納や御支援にてご協力頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

**寺子屋イングリッシュ
本年度も精力的に続行中!**

昨年この寺報でも多く取り上げてきたお寺の英会話、寺子屋イングリッシュはその後も常時稼働しています。常に課題を抱えながらではありますが、お寺のスペースがプロジェクタにおいてしっかりと機能しています。住職が自ら講師を務める英検対策補習クラスが本年度も開講し、昨年五級を合格した三名は四級に向け



て現在挑戦中、五級では六年生と四年生総勢九名が受講し秋の検定を受験致しました。私の補習は少し厳しいものですが、子供達に「頑張るべき時に頑張る」という人間力を養いたいという意図があります。秋の検定では、残念ながら全員合格とはなりませんでしたが、四年生でも英検五級を合格した子が二名おりました。この成功体験は大きかつたと思ひます。もちろんその努力は目覚ましいものがありましたが、合否はさておき、何かに挑戦することの素晴らしさを感じてもらえたらと思ひます。そして少しでもこの地域で英語が得意な子、異文化交流を楽しめる子、そんな子達が増えたら大きな収穫と言えます。まだまだその領域には達してませんが、この地域をこんな風に良くしたいというビジョンは明確なので、とにかく地道に続けて成果を積み重ねていくだけです。

そしてもう一つの寺子屋イングリッシュで特筆すべきは、フィリピン出身のハンゼル先生の滞在についてです。ハンゼル先生は生徒さん達と約四週間レッスンを通じて交流してくれました。私が感動したのは、皆さんがレッスン以外でもハンゼル先生を誘い出してきて、心温まるホスピタリティで接してくれてきたことです。最終日にはハンゼル先生が涙を流して別れを惜しんでくれた姿が印象的でした。日本を大好きになつて帰国したハンゼル先生、全て生徒の皆様のお陰です。遠い国のたつた一人の人生ではありますが、記憶に残る有意義な時間を提供出来たこと、そして迎え入れた側も異文化交流を楽しめたと思ひます。その橋渡しの役割を担えたと言つてよいかと思ひます。お寺が国際交流の拠点としての機能を備えるという目標も着実に実現可能なものになつてきました。

フェイスブックページあります!

facebook

是非、「いいね!」ボタンを押して下さい。
「観音院」で検索できます。

**お寺の増改築工事
間もなく施工完了します!**

五月から始まり当初の予定よりも遅れておりますが、段々と終わりが見えて参りました。外観についてはご存じの通り、既に外壁は完成してお寺前駐車場部分のロードヒーティングも作業を終えております。後はサインの貼り付けと入口の底部分の設置を残すのみとなりました。外観はモダンかつ親しみやすいデザインにし、気軽に入りやすい雰囲気を出したいと思つて考案しましたが、実際の出来栄は少々ポップ過ぎたかもしれせん。(笑)

現在は主に内部の新本堂を手掛けておりますが、私が理想としていた用途によつてフレキシブルに対応出来るスペースは、大よそのフレキシブルは仕上がっております。通常モードでは引き戸を用いれば、複数の仕切られたスペースとなり、法要モードでは引き戸をすべて外して大きな一部屋になります。限られたスペースを最大限有効活用できるように考えてきましたが、期待



(上) 建物外観 (下) 新本堂内装工事